

「人生会議」って ご存知ですか？

「人生会議」(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)とは、もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて【前もって】考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のことです。

今回は、緩和ケアチームの医師、緩和ケア認定看護師、理学療法士、ソーシャルワーカーを交えて「人生会議」についてお伝えします。

以下 **看護師**：緩和ケア認定看護師・**リハ**：理学療法士・**SW**：ソーシャルワーカー

当院の緩和ケアチームは、どのような活動をしていますか？

医師 治療することがほとんどできない病気の患者さんとそのご家族が抱える問題（身体的症状や心理的・社会的問題）に対して、チームで関わることでQOL（人生の質、生活の質）の改善を図る活動をしています。

当院では、今回のメンバー以外にも医師、薬剤師、看護師、がん性疼痛看護認定看護師及びがん化学療法看護認定看護師等で緩和ケアチームを構成し、週1回の病棟回診や、チームでの話し合いを行っています。

リハ 終末期の方に対して、今までの人生経験や仕事・趣味の話や、どこで最後を迎えたいか・家族との関係などを聞き出して、多職種で情報を共有し患者さんやその家族の思いに寄り添えるよう取り組んでいます。

看護師 日々の看護の中でも、患者さんやご家族との面談で、ご本人が大切に思っていることや、生活の様子や今後の希望など会話の中で出てきた思いをご家族と共有しています。

SW 患者さんにとって最後の相談者となる事もあります。後悔だけはしてほしくないと常に考え患者さん一人一人に接しています。ただ、ご本人が意思表示できなくなってから入院される場合やご家族の間での意見の相違がある場合など、医療者側も家族側も、どうすればご本人の希望に添えるのか悩む場合も多々あります。



そこで『人生会議』が出てくる訳ですね。

『人生会議』というのはどういう取組なのでしょう。

看護師 「もしもの時のために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のこと」が、人生会議です。

自分が思う生活や医療について思っているだけでなく、家族や医療者に知ってもらっておくことが大切です。また、病状が進行し生命にかかわる治療についてご家族だけで決めることは、ご家族にとっても負担です。あらかじめ、もしもの時について自分の希望が伝えてあればご家族にとっても判断しやすくなります。



リハ 一例ですが、入院をされていた終末期の患者さんから、家族のために誕生日のケーキを作りたいという思いをスタッフが聴き、リハビリテーション室のキッチンを使ってその患者さんと実際に作ったことがありました。会話の中で偶然患者さんから発信があって実現できたことですが、なかなか心に秘めた思いなどを汲み取り、拾い上げることは難しいです。前もって患者さんの思いを家族や多職種で共有し形にできていれば、こういった瞬間を増やしていけるのではないかと思います。

病院での『人生会議』の現状の取組はありますか？

看護師 厚生労働省の「人生会議」のポスターを外来に掲示しています。まずは知ってもらうことが大切だと考えています。

また、自分の思いを考え、ご家族と話し合う機会づくりのために、「おもいのシート」をチームで作成し、入院患者さんにお渡しすることを計画しています。家族と話し合い、できる範囲で記入して提出してほしいです。どこで過ごすかやこれからの生活、大切な思いなどを考えること、そして自分の思いを伝えることが「人生会議」の一步だと思います。家族も医療者もその思いを知ることが、次に何をするかにつながっていくと思います。



どういった事を話し合えばいいですか？

リハ これまでの人生で大切にしてきたことは何か。これからどのように生きていきたいか。最後はどこで、誰とどのように過ごしたいか。自分以外に意思決定を任せてもよい人物はいるか。

例えば、

- 介護が必要になった時、療養場所はどうか。状態が安定している時は？悪化時は？
 - 介護の協力者はいるか、サービスの利用などどうするか。
 - 余命や病名についての説明をどこまで希望するか。すべて聞きたいか。病名だけは聞きたいのか。
 - もしも、食事が食べられなくなったらどうしたいか。点滴をするか胃ろうを造るか。
 - 治らない病気になったらどうしたいか。
 - 病気が進行した場合の心肺蘇生は希望するか希望しないか。
- など

最後に緩和ケアチームからメッセージをお願いします。

医師 高齢者に限らず、誰にでも事故など急に命の危険が迫り、自分の望みを伝えられなくなる事態は起こり得ます。人生会議という言葉が広まり、日



常会話のなかにも浸透していけばと考えます。

SW 医療者もご本人の希望に沿い、ご本人を中心にご家族、医療者が同じ目標に向かい、医療やケアをすることを望んでいます。

看護師 大切なことは、自分の人生をどうしたいかを家族と話をすることです。その時々思うことが変わっていくので、何度でも話し合いながら、その時の状態に応じてご本人にとって一番良い選択ができるようにしてほしいです。

全員 一緒に考えていきましょう。





綾部市の取組

綾部市では、住み慣れた地域で暮らしつづけられるための取組として、地域の医師、歯科医師、薬剤師、看護職員、リハビリ専門職、ケアマネジャー等の関係機関が協働して、在宅療養を支援する体制づくりを行っています。また、市民の皆様へ在宅療養のための医療や介護サービスについての講演会なども行っています。



11月18日(土)
開催予定

綾部医師会主催の
映画上映

是非ご来場ください。

【相談窓口】
綾部市役所地域包括支援課 ☎0773-42-4262(直通)
メールアドレス: chiikihokatsu@city.ayabe.lg.jp